

(つくだに・煮豆・そうざい)

全調食協報

令和7年10月1日発行

No.182号

発行所

全国調理食品工業協同組合

〒110-0015

東京都台東区東上野3-1-10
井門東上野ビル3F

TEL 03-6807-7576

FAX 03-3843-3611

<http://www.zenchoshoku.or.jp/info/>



目次

- | | | | |
|---------------------------|---|-----------------------------------|----|
| ○能登半島災害支援物資等提供事業 | 2 | ○「豆・豆製品フェア2025in Saitama」開催 | 11 |
| ○「佃煮の日」キャンペーン・トピックス | 3 | ○第34回調理食品青年交流会 大阪大会 | 12 |
| ○「佃煮・煮豆」キャンペーン開催 | 7 | ○正月用おせちポスター販売のご案内 | 15 |
| | | ○令和7年度豆類産地懇談会 | 17 |

能登半島災害支援物資等提供事業

令和7年度の新規事業「能登半島災害支援物資等提供への補助金支給」として、7月から組合員が製造する佃煮・煮豆・惣菜などの製品の無償提供を実施しています。

この事業は、能登半島災害の復興支援を目的に、組合員が自社製品を無償提供した場合、1社につき原則10万円を限度として、20社を目安に補助金を支給し、復興に役立ててもらうものである。支援物資は、地震発生当初から継続支援を行っているカネハツ食品(株)（加藤英敏社長）の第一配送センターより発送され、石川県の問屋を経由して被災地の子ども食堂等に届けられます。

昨年1月の地震発生から、組合支援として佃煮・煮豆・惣菜など約6,000パックが無償提供され、未だ復興が道半ばである被災地への食料支援として大いに貢献できた。



寄贈された佃煮や煮豆、惣菜



支援物資の仕分を終えた加藤副理事長

写真提供／(株)食料新聞社

「佃煮の日」キャンペーン・トピックス

6月29日の「佃煮の日」に合わせて、今年も各ブロックにおいて、佃煮のおいしさやヘルシーさをPRするキャンペーンが展開されました。

〔東日本ブロック会〕

〈秋田地区〉

秋田地区では、秋田県佃煮組合（安田和博組合長）が「佃煮の日」に合わせて今年も「佃煮の日」キャンペーンを実施した。6月16日に潟上市立天王小学校へ組合員が訪れ、4年生と6年生の児童を対象に佃煮についての授業が実施された。

授業はクイズ形式で行われ、佃煮の歴史や秋田県内の佃煮業者についての問題の他、今年文化庁が認定する「100年フード」に秋田佃煮が認定されたことに関する問題も出題された。佃煮の知識や「100年フード」認定への周知を図った内容で、児童にとっても有意義な授業となった。

授業の最後には、組合員が製造した秋田県産の佃煮ミニパック、佃煮の日クリアファイル、リーフレットが配布され、児童は笑顔で受け取り、佃煮キャンペーンは終了した。



天王小学校での佃煮授業

写真提供／榎食料新聞社

〔東海・北陸ブロック会〕

6月29日の「佃煮の日」に合わせ、日本の伝統食品並びに地産地消としての「佃煮」の認知・継承を目的として、各地域各会員企業で小学校等に佃煮を配布し、佃煮の消費拡大キャンペーンを実施した。

〈東海地区〉

東海地区では、東海北陸ブロック会の会員である貝新物産株式会社（水谷誠志社長）は、6月29日桑名こども食堂ネットワークへ、桑名を代表する郷土食である「時雨あさり（甘口）」を寄贈した。佃煮の日の時雨あさりの寄贈は今年で5回目を迎え、桑名子ども食堂ネットワークの対馬あさみ代表からも、「5年連続の食料支援に感謝している。現在は物価高の状況で、子育て家族では経済的に苦労しているという声も聞こえる。寄贈いただいた時雨あさは、桑名市内14か所のこども食堂での提供を予定している」と感謝の意を述べられた。



佃煮を寄贈する水谷社長

写真提供／㈱食料新聞社

〈北陸地区〉

北陸地区では、石川県佃煮調理食品協同組合（大畑晃一理事長）が中心となり、佃煮の日のキャンペーンの一環として6月23日～27日の間に、金沢市内の全小学校および併設中学校等合わせ生徒数約2万人へ「あみえび佃煮」を提供した。24日には金沢市立栗崎小学校の4年生60名へ、組合員が訪問して出前授業を行った。

訪問した大畑理事長は、金沢で佃煮が発展した理由も解説。加賀藩の前田家が参勤交代をきっかけに江戸の佃煮を持ち帰り、金沢の農水産物や加賀料理と結びついて独自の佃煮が生まれたと説明した。

また、児童からは「佃煮は魚や貝のイメージが強いが、お肉の佃煮はあるのか」という質問も出て、会員らは「お肉の佃煮もある。他にも全国にはご当地の佃煮が数多くある」と答えていた。

給食時には、佃食品株式会社（佃一志社長）が制作した「あみえび佃煮」を製造する動画が放映された。実際に、「あみえび佃煮」を食べた生徒たちは、「甘くて美味しい」「ご飯に合う」と笑顔で感想を述べ、ご飯をおかわりする児童もいた。

給食へ佃煮を提供する取り組みは今年度で19回目。大畑理事長は「佃煮を知らない生徒の割合が年々増えていると感じる。佃煮文化の継承には先ず食べてもらい、美味しいと感じてもらうことが必要。今後も継続していきたい」と語った。



金沢佃煮の歴史を学んだ児童



大畑理事長ら出前授業をおこなった組合員

写真提供／㈱食料新聞社

〈豊橋地区〉

豊橋佃志会（平松大地会長）は6月29日「佃煮の日」にあわせ、豊橋市内の小学校4校へ、佃煮1400個、クリアファイル・パンフレットを寄贈した。

パンフレットは、「佃煮とは」「三河地域でつくだ煮が名産の理由」「佃煮の日の由来」が学べる内容になっており、日本語に加え、英語やネパール語、ポルトガル語、中国語版も用意し、様々なバックグラウンドを持つ子供たちに提供できるものにした。

平松会長は「魚介の佃煮は、カルシウム・DHA・EPAが含まれ成長期の子供たちにはぜひ食べて欲しいと述べ、今年は、三河を代表する佃煮「あさり志ぐれ」をはじめつくだ煮の定番であるにしん、さんま、ちりめん、子持ちししゃも、おかかを提供した。



平松会長 東田小の沖田校長へ寄贈



平松会長 八町小の山岡教頭へ寄贈

写真提供／榊食料新聞社

「佃煮・煮豆」キャンペーン開催

□北海道ブロック会

第1回「子ども食堂」無償寄贈実施

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、7月23日(水)函館市のフードバンク道南協議会の傘下「ワーカーズコープ茜」へマルキチ食品(株)金子社長、(株)カワショク川本社長が訪問、佃煮煮豆商品1300個、クリアファイル500枚を無償寄贈した。

寄贈商品(順不同)マルキチ食品(株)「にしん昆布巻」250袋「さけ昆布巻」250袋、(株)カワショク「松前漬」300袋、山源山下食品(株)「黒豆」200袋「金時豆」300袋を寄贈した。



贈呈式

写真提供／事務局

□ 東日本ブロック会

第1回「子ども食堂」無償寄贈実施

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、7月28日(月)杉並区社会福祉協議会へ、組合員19社27商品の佃煮・煮豆等2,438個(佃煮等1,692個・煮豆746個)を無償寄贈した。また、当日は全国豆類食品消費啓発推進協議会(岩田功会長)を通じて、全国甘納豆組合連合会(塚本裕会長)より甘納豆300個、全国フライビーズ組合連合会(吉川猛理事長)より大粒花豆200個の寄贈も行われた。

東日本ブロック会による子ども食堂への令和7年度寄贈事業は、今回が1回目となる。当日は「杉並区社会福祉協議会」の事務所において14時より贈呈式が行われ、菊池光晃ブロック会長より手島広士常務理事へ「佃煮・煮豆」等が贈呈

された。また、宣伝商材として佃煮の日クリアファイルも寄贈した。

菊池光晃ブロック会長（菊池食品工業㈱）は挨拶で、「今回の佃煮・煮豆製品は常温で保存でき、広く行き渡っていくと良い。物価高騰などで貧困家庭も多くなり、日本の将来を支えてくれる子どもたちのお役に立てればありがたい。今後也是可以することはやっていきたい」と述べた。

日本豆類協会の穴井振興部長は挨拶で、「子どもたちに豆類のことを知っていただき、寄贈した甘納豆などを是非美味しく食べていただきたい」と述べた。お礼に手島常務は、「杉並区では子ども食堂ネットワークに約40施設の登録がある。子ども達の体と心の成長につながる貴重な食品を寄贈いただき、深く感謝申し上げます。次回は、子ども食堂の現場を見ていただく機会もぜひ設けていただきたい」と感謝の意を述べられた。

寄贈商品（順不同）は、金ごまわかさぎ（佐藤食品）、若さぎ唐揚げ・渦美人（菅英佃煮本舗）、極旨メンマ（ミクロ）、ピリ辛わかさぎ（小沼水産）、ピーナツみそ（鳩屋）、POTAYUトマト・POTAYUパンプキン（石井食品）、たらこわかめ（仁徳）、いわし銚子煮・あさり佃煮（青柳食品）、国産葉唐辛子・国産きょうらぶき（遠忠食品）、さざめ昆布（銀座新之助貝新）、金紋みそピーミニパック（日出味噌醸造元）、くるみ小女子（勝木食品工業）、高原豆・三色豆（佃屋食品工業）、あみ佃煮・山菜あさり（高沢食品）、たらこ昆布・若さぎ佃煮（オオタニ）、羽田大谷の若炊きあさり（大谷政吉商店）、十品目野菜豆・七品目ひじき豆（菊池食品工業）、3種のとろ火炊き煮豆セット（菊田商店）、帆立と根昆布の炊き合わせ（タカハシ食品）



「杉並区社会福祉協議会」で贈呈式

写真提供／㈱食経



寄贈された佃煮・煮豆商品

写真提供／㈱食経

□東海・北陸ブロック会

子ども食堂支援事業

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、5月14日、一般社団法人つなぐ子ども未来（名古屋市昭和区）・NPO法人キッチンキング（名古屋市東区）の2カ所の子ども食堂へ、佃煮・惣菜を計624パック寄贈した。当日は、カネハツ食品㈱（加藤英敏社長）本社近くの第一配送センターから寄贈品が配送された。寄贈品目には、「ごま昆布」「しそ昆布」「筑前煮」「たけのこ土佐煮」「ポテトサラダ」と数多くの商品が並んだ。



寄贈された佃煮や惣菜

写真提供／㈱食料新聞社

□近畿ブロック会

子ども食堂支援事業

大阪府調理食品協同組合（廣川昌平理事長）は7月16日、大阪府松原市で子ども食堂などを運営するNPO法人「やんちゃまファミリーW i t h」に佃煮858品を寄贈した。同NPO法人への寄贈は2回目で、(株)廣川、(株)山本、(株)天満屋、(株)舞昆のこうはらの5社から「おかか牛蒡」「ごま昆布」「ニシン甘露煮」「つぶら松茸昆布」「たらこ旨煮」など14種合計約100kgを寄贈した。

廣川理事長は、「会社では5年前から佃煮の寄贈を行っているが、昨年から全調食の事業として、より多くの佃煮を届けることができるようになった。今後もできるかぎり寄贈を続けていきたい。」と述べた。

やんちゃまファミリーW i t hの田崎理事長は、「昨年も子ども達がとても喜んでくれた。今年も数多くの商品を寄贈いただき感謝してる」と述べられた。



廣川理事長(右)と田崎理事長



寄贈した佃煮

写真提供／(株)食経

「豆・豆製品フェア2025 in Saitama」開催

豆類消費拡大を目的に、(公財)日本豆類協会の豆類振興助成金を活用して、8月1日(金)に埼玉県のイオンモール「浦和美園」に於いて「豆・豆製品フェア2025 in Saitama」が、全調食と全国甘納豆組合連合会(塚本裕会長)と全国フライビンズ組合連合会(吉川猛理事長)の3団体で構成される全国豆類食品消費啓発推進協議会(岩田功会長)主催により開催されました。

当日は、豆製品の標本や豆の製造過程などをパネルやタペストリーにより展示を行い、来場者へ全国甘納豆組合連合会より「甘納豆」、全国フライビンズ組合連合会より「大粒花豆」、全調食より「ほくほく蒸し黒豆(うす塩味・ほんのり甘口)」とパンフレットの詰め合わせ800セットの無償配布を行った。

アンケートを紙ベースとQRコードの両方を用意して、豆についての話題提供をしながらPR活動を実施した。



豆・豆製品フェア2025inSaitama 開催



豆フェア会場の様子

写真提供/㈱食料新聞社

第34回調理食品青年交流会 大阪大会

第34回調理食品青年交流会大阪大会が6月3日、「大阪市の心斎橋サンボウル」で開催された。全国から調理食品業界に携わる若手経営者および後継者らが参加して、盛大に開催された。

大阪・関西万博の会期に合わせ、昨年の神戸大会に続き2年連続の近畿開催となった。講演会や工場見学といった「学び」の要素が強かった昨年の神戸大会からは一転、ボウリング大会や大阪の名所を巡る「交流と観光」に重点を置いた大会となった。

本大会のテーマは、「未来にかがやく佃煮社会」。ボウリング場に集まった一同を前に梶原靖久大会会長（株式会社天満屋社長）は、「我々は競争相手であったり、原料を融通し合う仲間であったりと色々な側面があると思う。しかし今日は一旦仕事のことは忘れて友達のように遊び、話して欲しい。楽しんで、気心の知れた仲になった先で、調理食品の未来を深く語り合って欲しい」とテーマに込めた思いを語った。ボウリングは2ゲーム行われ、優勝者およびレーンごとのチームには、ペア旅行券等の豪華賞品が授与され大いに盛り上がった。



心斎橋サンボウルで開催



懇親会の様子

その後、会場を西成区の「鯛よし百番」に移して懇親食事会が開催され、来賓として全国調理食品工業協同組合の岩田功理事長と柴田昌美専務理事が来場した。岩田理事長は青年交流会が始まった当初を振り返り「当時、他団体でも盛んに青年部集まろうという動きがあった。多くは親組合の下で開催されていたが、我々は若者の自由な行動力を大事にしたい思いから自主活動とした。楽しみながら、色々な経験を積んで欲しい」とエールを送った。



来賓挨拶岩田理事長

株式会社廣川の廣川社長は「大阪の古い街並みを感じながら語り合おうとこの会場を選んだ」と乾杯。ボウリングで盛り上がったお陰もあり、皆打ち解けた雰囲気、杯を重ねるに連れ、佃煮業界はどうあるべきかと討論する姿も見られた。

最後は、梶原会長と赤名実行委員長から、来年開催予定地である鹿児島県の岩重雄也氏（かねだい食品株式会社社長）へ青年交流会の歴史を受け継ぐ法被の贈呈式が行われ、「今日のように楽しく思い出になる大会を企画する」と宣言した。



梶原大会会長



赤名実行委員長



次回開催予定地鹿児島へ手渡された法被

写真提供／㈱食経

正月用おせちポスター販売のご案内

令和7年9月22日

組 合 員 各位

全国調理食品工業協同組合
TEL:03-6807-7576 FAX:03-3843-3611

正月用おせちポスター販売のご案内

拝啓 初秋の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、今年度につきましても正月用おせちポスターの販売を行います。
今年の販売単価につきましては、昨今の印刷費用、紙代の値上がり、申込数の減少などありますが、昨年同様、**1セット単価200円(税込)**とさせていただきます。
なお、今回ご注文いただくポスターの送料につきましては、文港堂印刷㈱からの発送となり、1包(100セット×2梱包)当たり、発送地域によりますが、**400円～715円(税込)**の送料となります。
つきましては、購入ご希望の方は、別紙申込書により**11月21日(金)**までに事務局宛(**FAX03-3843-3611**)にてお申し込み下さるようお願い申し上げます。
なお、ご注文は在庫管理の都合上 **1 梱包(100セット)単位**となりますのでご了承願います。

敬具

記

1. 販売ポスターの概要

種 類	品目数	1セット単価	送 料	発送元
全調食・おせち料理ポスター	8品目	@200円 (税込)	1包(100セット×2梱包) 400円～715円(税込)	文港堂印刷㈱

2. ポスターの掲載品目

若さぎ串焼	くろ 豆	昆 布 巻	たつくり
お多福豆	お煮しめ	栗きんとん	鬼がら焼

3. お届け先並びにお届け日の指定

本社以外へのお届けの場合並びにお届け先への必着日をご記入下さい

4. 代金のお支払い

年明けの1月中旬頃、事務局より送料込みの代金をご請求させていただきます。

以上

おせちポスター（8品目）



「令和7年度豆類産地懇談会：作況調査(北海道十勝管内)」



産地懇談会



作況調査風景



きたいろは



えりも

播種作業は、ほぼ平年並みであった。
播種後の気温が平年並み～やや高かったため、出芽も平年並みとなった。
6月中旬以降の高温多湿の影響で、生育・開花が進んだ。

写真撮影：令和7年9月4日